

校内研担当からだよ！

授業改善 生徒が主体的・協働的に取り組む授業
～生徒が思考力をつけるために 思考ツール等の活用～

平成30年度 愛川中学校
校内研究通信
第8号 2月20日(水)
発行者: 校内研担当

○各教室の授業の内容&様子○

Aグループ(理科)

(1) 本時の目標 自作したモーターの模型を動かしながら、フレミングの左手の法則を活用し、コイルの回転する向きや整流子のはたらきについて考えよう。	(2) 目標達成のための手だて(主体的・協働的な場面) ○整流子のある立体的なモーターの模型を作成し、電流や磁界、電流が受ける力の向きを考える。(主体的な場面)。 ○個人で作成したモーターの模型をグループで複数個使い、コイルを回転させたものを時間の経過に沿って並べて、整流子のはたらきを考える。(協働的な場面) ○整流子のはたらきについて考察する。(深い学び)
--	---



Bグループ(保体)

(1) 本時の目標 それぞれのグループの曲の特徴を捉え、グループで共通の考えを持ち、ステップを入れていく。	(2) 目標達成のための手だて(主体的・協働的な場面) ・思考ツール『データチャート』で分けたステップを参考にして、曲調に応じたステップを入れていきながら、創作させる。
--	---



○生徒インタビューより○

Aグループ(理科)

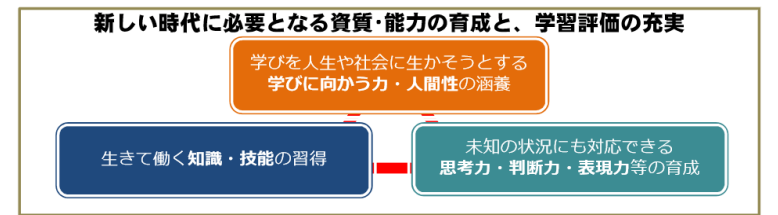
- Q: 説明するときに模型を使ったか。
A: 結構使った。触りながら動きを確認した。 A: 結構使った。実際の動きを示しながら。
A: あまり使っていない。話し合っている内容で理解できた。
- Q: 普段行っている文章での記入の方法と今回行った、ことばでの説明のどちらがよいか。
A: ことばでみんなに伝えた方が意見が出てまとめられる。
A: ことばで分かりやすく教えてくれるからこっちの方が良い。
A: あまり変わらない。 A: うまく伝えられないことも多かった。
- Q: 今回のようにグループで考えた方がよいか、個人で考えた方がよいか。
A: グループで考えた方がよい。理解している方だけと誰かに教えることで自分の考えをまとめられるから。
A: 1人でやるより、みんなでやった方がよい。1人で解ききれないものもできるようになるし、団結力が生まれる。
A: みんなで話し合っていると時間がかかると思うこともあるから、個人で考えてやりたいこともある。

Bグループ(保体)

- Q: ワークシートが役に立ったか。
A: ○「落ち着いている曲調」の時には「簡単な動き」を使おうなど選びやすかった。
A: △ワークシートで考えた「難易度」を見て、難しいステップが続かないように工夫した。
- Q: 1年生の時のダンスの授業と比べて、どんな感想を持っているか。
A: ダンスが苦手だったが、できるようになってきた。できなかった時の気持ちが分かるから、今回、友だちにも分かりやすく教えてあげることができたと思う。
A: 昨年度より難しいが、1年生でやったものの発展があり、生かされていると感じた。
- Q: グループでどのような話し合いがあったか。
A: 「テンポが早いところは速いステップにしよう。」 A: 「曲に合っていないので考え直そう。」
A: 「隊形移動のステップを考える時、班員から自分の意見と違う考えが出て、なるほどと思った。」

○池田先生の話○

- ・ということが今求められているのか
→答えのない問題に最善解を導く
右の図の3つの資質・能力の上の部分意外と重要!
- ・ショートケーキが8個とチョコレートケーキが5個違いはいくつ? $8-5=3$ $13-10=3$
→子どもは何らかの形でこれまで学んだことを類推している! 試行錯誤! 一歩を踏み出す勇気!
- ・個人差が有効に用いられるのが授業の本質。常に先生が問いを出していくのではなく、やっていく中で生徒が出した問いを共有していく。問題提起→問題解決 問題提起が大切!
- ・よりよい説明を! 簡潔・明瞭・的確 このイメージが持っているか?
→説明の正誤の判定は誰が...? 大人のところで説明させて正解です。もできるけど...。子ども同士でできることもあるのでは...
- ・教室は間違ふところだというけれど、実際間違ふことを発表することには抵抗がある...。
→発表したことで間違ふことをブラッシュアップしていける! という価値を子どもが獲得できていないとは考えられないか。
→聴く側の負荷。間違ふことを発表した人にすぐに「違います」「それおかしい!」とかではなく...。「相手の話をきちんと理解しようとして聴く(どうしてそう考えたんだろう?とか)」「聴いていても分かっていないことは?」「相手の話している」
- ・生徒たちのどういう姿を評価するか
→友だちの考えとの関わりを明確にできる。「つけたしがあります」「これまでの考えをまとめると」
→どういう観点からつないでいくか理解している「何かたりない点はないか(つけたし)」「バラバラの点はないかな。まとめるとどうなるかな。」
→友だちの理解度を想定して発言できる。「ここが少し分かりづらい気がします。」「もっと分かりやすい説明はないかな?」
- ・思考ツールの役割を意識しよう! 「問題を解決するための思考ツール」なのか逆に、「問題を出すための思考ツール」なのか それとも「共通理解するためのツール」なのか...。など
- ・今後に向けて、研究のまとめは、出発点である! 大きな思い石が動き出した! この研究の動きを止めないように!



○来年度に向けて○

- 来年度テーマ「つなぐ・つながる」 今年度までのテーマ「主体的・協働的」を引き継ぐ
- 1, 生徒の知識がつながる授業
 - 2, 授業の中で生徒同士がつながっていく授業
 - 3, 授業と評価をつなげていく授業
 - 4, 授業と家庭学習をつなげる授業
- などこのような事を考えてテーマとさせていただきます。
- 1, 生徒の知識がつながる授業...学んだ知識・技能同士をつなげて活用し学びを深めていく。
 - 2, 授業の中で生徒同士がつながっていく授業...子ども同士の協働で、自己の考えを深める。
 - 3, 授業と評価をつなげていく...2021年の学習指導要領完全実施に向けて評価(知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう人間性)の方法と授業をつなげる。
 - 4, 授業と家庭学習をつなげる...授業でやったことを定着させるために家庭学習を充実させ、家庭学習が活きる授業づくり
- みたいな事を考えています。